



# 再生

演出

李そじん

藤井颯太郎

出演

安東信助

大野明香音

川原田樹

木山廉彬

平野鈴

益山寛司

間瀬奈都美

瑞生桜子

茂手木桜子

# 01

## 「再生」とは？

東京デスロックの演出家多田淳之介が、2006年当時社会問題になっていた集団自殺をモチーフに作った作品。音楽がかかる中で、あらゆる世代の人たちが、人生最後の数十分間を、飲み、踊り、歌い、話し、沈黙し、また踊り、そしてバタバタと倒れていく。

初演以降、何度も再演が繰り返されてきたこの作品を、今回は30分の短編作品verとして李そじん、藤井颯太郎の共同演出によりお送りします。

俳優の肉体が酷使される中で、生きるとは、死ぬとは、今とは、未来とは、と様々に想いを巡らせながら、人間のパワーを感じられる、非常に普遍的かつ演劇的な作品です。

# 02

## どうしてDojoWIPで「再生」をやりたいと思ったのか～DojoWIP「再生」企画書より～ (企画・演出/李そじん)

「再生」には、6年前に自分自身が俳優として1度出演したことがあります。

死に向かう繰り返しの構造の中で、身体の限界に挑んだことは、他の作品ではなかなか味わうことのなかった得難い経験となりました。

今年の2月、前回の東京演劇道場の公演「わが町」が終わった直後のことです。東京デスロックの「再生」を今度は客席から観る機会がありました。「再生」は、観劇体験としてもやはり強烈で、それと同時に、「再生」に道場の人たちが出ているところが見てみたい！と直感的に強く思いました。

ひとえに東京演劇道場といっても、様々な出自の人がいて、それぞれの良さや得意なことが全く違うところが、面白い場だなあと感じています。

「再生」は、俳優たちのそのバラバラさが強みになる演目であり、舞台の上に立つ俳優その人自身が剥き出しになっていくような、懐の広い真っ向勝負の作品です。

野田さんが率いる演劇道場、という点では「身体」がキーになっている作品であることも、道場メンバーで取り組む意義があると思っています。

是非、一緒に、「再生」を、創作してみませんか？

# 03

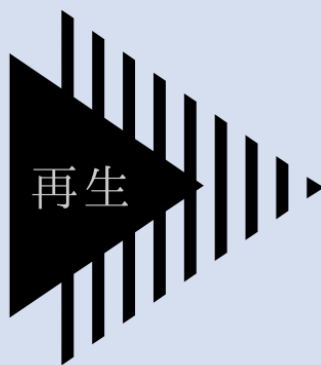
## 演出 藤井颯太郎

昨夏『再生』という作品を初めて見た。生身の俳優が目の前でなんども再生(REPLAY/REBIRTH)するのを目の当たりにして、客席に座っているだけの僕も汗だくになっていた。ほぼスポーツ観戦だ。紛れもなく“演劇でしか体験できない”作品だった。

2006年初演当時の社会問題であった集団自殺をモチーフにしながら30分の物語を3回繰り返すという特異な構造で、決して再生できない“時間”や今ここにある“生”を克明に描き出していく。東京デスロックの多田淳之介さんが考案した『再生』という作品は、僕の中の“演劇”をひっくり返すような画期的な作品でした。

Dojo WIPでの上演では、多田淳之介さんの原案をもとに30分バージョンの新しい『再生』を作ることには挑戦します。90分の作品をどうやって3分の1にするんだろう。ゲームのRTA(リアルタイムアタック)のようにショートカットできるバグを見つけるのか、全編三倍速で再生するのかちょっと見当もつかないが、共同演出の李そじんさんと尊敬する9人の俳優の皆さん(安東信助さん、大野明香音さん、川原田樹さん、木山廉彬さん、平野鈴さん、益山寛司さん、間瀬奈都美さん、瑞生桜子さん、茂手木桜子さん)とともに、WIPらしく、のびのび大胆な挑戦を重ねていきたい。

李そじん 企画



多田淳之介 原案

演出 李そじん 藤井颯太郎